

平成 26 年度第 2 回津山市行財政改革推進委員会 議事概要

日時：平成 27 年 2 月 16 日（月） 午前 10 時 30 分～11 時 50 分	場所：津山市役所 2 階 第 1 委員会室
出席者 <委員> 鳥越良光会長、坂本道治副会長、藤本貴子委員、菅田茂委員、松本美幸委員、稲垣聰委員、多田憲一郎委員、小山京子委員、村岡政明委員、小西治之委員、古金広志委員 <津山市> 宮地市長、大下副市長、田村教育長、常藤特別理事、部長級職員、行財政改革推進室職員 <傍聴人> 1 名	
1 開会 2 市長あいさつ 3 会長あいさつ 4 協議事項 （1）第 4 回津山市版事業仕分け対象事業の今後の方針について 事務局：実施内容を説明。 ・民間社会福祉施設整備事業 事務局：今後の方針及び策定理由について説明 委員：利用者の不安に配慮した対応を願う。 事務局：補助対象などを検討し、事業者への幅広い支援が可能となるよう、また市民に利用しやすい制度設計をしていきたい。 委員：大規模な団体への固定資産税課税の検討をしてほしい。 会長：市は団体の内部留保を具体的に把握しているのか。 事務局：団体への監査は県や市が行っており、把握はできる。 会長：本当に困っている人に手厚くなるなど、公平・公正な制度がこれからの課題であり、その考え方、基準が言える仕組みづくりが必要に思う。 委員：補助を市の将来への投資と考え、柔軟な補助による民間事業者の育成を願う。 委員：市の余剰施設の貸付検討、労働者の働く場の確保を願いたい。 会長：職場の提供による自立は生きがいにも繋がる。効果効率的な見直しを期待する。 ・グリーンヒルズ津山 リージョンセンター管理運営 事務局：今後の方針及び策定理由について説明 委員：使用料の見直しは利用者減につながらないか、効果額の根拠は。また、情報発信の充実は、どのように行う予定か。 事務局：区分のあった使用料を統一するもので、効果額は実績から算出した。情報発信は、ホームページや利用実績のある団体への案内などを考えている。 委員：将来構想を策定するための検討会は、担当部署のみでなく幅広いものが望ましい。 会長：地方創生のためにも地域資源の有効活用策を検討してほしい。 委員：検討会では使用料などに留まらず、視点を変えた柔軟な発想をもった活用の検討を願う。	

・グリーンヒルズ津山 グラスハウス管理運営

事務局：今後の方針及び策定理由について説明

委員：民間に貸し付けた後、返却の申出があった場合はどうするのか。

事務局：貸付から 5 年が経過していれば、現状の用途としては廃止したい。

会長：指定管理を継続する場合はどうしていくのか。

事務局：次回の指定管理期間では、レジャープールの運営を夏季に限定するなど運営方法を見直す。

会長：厳しい財政状況のなか、維持すべき施設としての優先順位は高くない。ここに市費を投入すべきか、はっきりとした基準を考えねばならない。

委員：用途を変更して、多目的な活用が可能か検討すべきだ。今あるものは市の財産と考えて、活用策をもっと広くいろんな発想で真剣に考えるべきだ。

委員：市財政厳しいなか、今後経費がかさむと分かっている施設を持ち続けることには賛成できない。

委員：多額の経費をかけないで、別用途で施設を活用できればよいと思う。

委員：県や民間などから広く意見をきいて検討せねばならない。

市長：今後の活用の可否については、全庁的に議論せねばならない。

委員：県への返還金、運営形態変更に対する指定用途充足の可否、維持経費の再検討など、検討事項は多々ある。

委員：今後必要な修繕費や現状での施設維持期間をどう見込むか。

事務局：今後、大規模な修繕が必要となるが、平成 32 年度まではもたせたい。

会長：検討内容は多岐に及ぶだろうが、しっかり議論してほしい。

(2) 第 10 次津山市行財政改革大綱策定作業について

事務局：計画期間が平成 28 年度から 5 年間となる次期大綱の、来年度予定している策定スケジュールについて説明。

～ご意見なし～

(3) その他

なし

5 閉会

副会長あいさつ